

「カンタタオセ九番」演奏について

地宮 英文

一昨年の春頃であった。フランスのストラズ
プールの森井恵美子さんから、数冊のバッハ教会
カンタタの楽譜が届いた。

私はずっと以前から日本語訳で、それそれの
礼拝あるいはシーズンに、それにふさわしいバ
ッハのカンタタを歌い演奏したいと、自らも熱望
し、人にも語っていた。

森井さんにも、そのことを三年ほど前に語
った覚えがあった。森井さんは作自身、キリ
スト者としての歩みから生ずるところの必然性
として、バッハの日本語訳が、日本中で声高らかに
どこでも歌われることを祈られ、訳されたと思
う。

訳は大変意味をよく扱って訳されていた。

その中の一曲であるオセ九番の宗教改革記念日
礼拝用を日本語で早速演奏した。一昨年の十
月であった。

序承知のように宗教改革カンタタは二曲あつ

て、オハの番とこのオセ九番である。オハの番
はオーケストラの編成は、例のバッハ時代のD
のトランペットが必要で編成も大きく手軽に
はオーケストラが編成できない。

オセ九番は、適当に強く、適当にリリクであ
り、入手困難なDトランペットはなく、絃楽アン
サンブルにホルン(2)、オーボエ(2)、ティンパニーとい
う容易な編成で演奏が可能である。日本の実状
で最も手頃な名曲といふべきであろう。

x x x

十一月十日に、本郷区教会において、カンタ
タオセ一番(森井氏訳)と共に再び演奏されるが
「そのシーズンに、ふさわしいバッハカンタタを日
本語で」といふ礼拝音楽の本当の姿を示す、
とかがければ感謝であります。今回は合唱団
の皆さんと一齋する機会をいただきました。心
から嬉しく思います。

一生懸命によい演奏をいたしました(ように)。

カンタタオセ9番解説

アノルド・シエリング
山下云之 訳(抄)

この作品はバッハが書いた三番目の宗教改革
記念のカンタタである。歌詞は詩篇第12節
からとられているが、作者不明。曲は荘厳な行
進曲の動きをもっている。ホルンがその暗い金
属的な調子によって伴奏楽器とみことと対
照をなし、そのあふれるような幸福にみちた
旋律が表情豊かにリズムカルに流れる。それか
十分に展開されずには小節の後中止される。
このテーマは「光・指」の象徴と解されよう。つづ
く、フーが風に軽快に修飾された16分音符は
「主の民はさらかむることなし」に対応する。

この二つのテーマは、どちらもその特徴ある性質
を失われずにきかれねばならない。又、両方
とも霊的な意味や事実上の内容に關しては
二つの語句の同質性を象徴的に指し示している。

合唱の冒頭は、ホルンのオセ一テーマにはもたら
ず、自由に歌われ、大きなカーフを描いて上り下り
する。このカーフと共に二つの伴奏楽器の勢力

が対照される。その一方である。独唱者とオーボエは、フーが風の動きを全くそそぐられずにつづける。

豊かに波動した曲は「主の民はさちかくることなし」ところでもと生き、生きとした調子の連続に変わる。オーケストラにだけかかれ、フーがテーマは、今やバス声部から増加して次々と他声部に渡されてゆく。

ホルンがその静の休止の後に「光・楯」の旋律を今度は合唱を伴ってホ短調でくり返すところ。曲はクライマックスに達し、合唱とホルンとの、豊かなカチ杯の音色のうちに終止する。

つづくアルトの詠唱は、歌詞の奥で先だつ合唱とそっくりそのままである。魅惑的なオーボエの音色が、声によって表現される哀びと感謝の気持に、こころよく調和する。

次にくる、M・リニカルトの讃美と感謝のうたに惹いたコラールは、バツハのよくなる巧みな不意打ちの一つの例である。聴者は、先の日頭合唱のホルンのテーマが、独立の創作ものではなくて、このコラールの旋律の対位旋律として作られていることに気づくのである。この着想の高貴さと大胆さとは、非常に感銘深い。こころは、最大の声量のコラールと

釣衝をとるのはホルンとティンパニーだけであるから速度が非常に重要である。オーホルンは高音域の程限にまでしはしは達する。

このような音楽うあとに宗教改革記念日の説教をするプロテスタントの牧師はしあわせだ！。聴衆の心は、かれのことはを受け入れるために開いているであろう。おそらく、説教は、ルターがかれの無数の信徒を導くためにしはしは開いた「南から光へ」のことはで終るにちがいない。

バスの叙唱につづく、ソプラノ・バスの口短調の詠唱は、前半で不安と悩み、後半で快活と勇気の、感情豊かな経路をたどる。

最後のヘルムホルトのコラールは、バツハは単純ではあるが、不存の力をもった音楽をつけた。この曲は二つのホルンを独立に扱って、二声の和声には拡大されている。

オ1回公演について

△バツハ合唱団のオ1回公演は、次のようにきまりました。最善をつくして公演にのぞまれました。

日時 11月10日(土)午後6時30分
場所 弓町本御教会(新豊真砂町)下車
地下鉄本御三丁目
曲目 バツハ・カンターオ1番、オ17番

指揮 池宮英才氏

独唱 野坂陽子(S)・木村宏子(A)

山田実(T) 池上恵三(B) 4氏

主催 △オルガンとカンタータの会

整理券 200円(500枚発行)

注意

バツハ演奏の態度 風厳をもって、あはるく、誠実に、あたたかく。

服装 男性 黒・紺色背広・黒蝶ネクタイ、白ワイシャツ・黒靴

女性 黒ワンピースまたはスリワ(七分袖以上)・目立つ装飾品を避け、ストッキング・中ヒール以下の黒靴

練習日 (練習所)

10月14・21日、11月4日午後6時

(弓町本御教会)

11月2日(金)・9日(金)午後6時半

10日(当日)午後3時

○10月28日(日) 飯田橋ルートセンターでカンタータオ17番のみ賛助公演(詳細は別紙報告します)

整理券・ちらしを作成中ですが、団員の手で会場を整理をお願いします。尚、加友他に団友30名を含む100名の方に招待券をお送りします。

カンタータとは？

パフンヨン(受難曲)、オラトリオ(聖譚曲)が宗教的などから発しているのに対し、カンタータは世俗的な出発をしていますが、Cantataという言葉は聖樂の曲 *cantata* に対してつけられた、

「歌われる曲」という意味の名前です。そういう大抵はな意味の名前が示す通り、形式としても特に厳密な定義はありません。はじめはマドリカルの影響がいろいろ大きかったようですが、教令カンタータになるとコラールもとり入れられるし、十八世紀にはその頃はやりの器樂的要素も入ってくるし、後になるにつれてオラトリオもパフンヨンもカンタータもみんなほとんど見分けがつかないような状態にならざるを得ないのです。バロック時代には、世俗的—教會的という二つのものの対立はあまり強いものではなかったのだと思えます。教会では当時において一般によいと見られていた音楽様式がそのまま用いられたのだと思えます。ドイツではルター派の教会礼拝と結んでいて、説教の前の讚美歌の場所に入りこんでいて、たんだんと大抵かりなカンタータになって行ったのでした。(他宮英才・東京女子大学音楽主任)

あの時代のドイツ人はコラールに生きていた。社会

全体がコラールを知っていた。その地盤があったからこそ、バツハはカンタータの中で音楽と言葉の両方をもつて自由自在に聖書を説くことができた。スウェーデンの大監督にセーテルフローという方がありましたが、かれはバツハの音楽を(聖書のマタイ・マルコ・ルカ・ヨハネの四福音書に次ぐ)「オ五福音書」とよびていました。実際、バツハはそれほどの役割をその数多い作品によって果たしていると思ふ。(青山四郎・日本リテラル神学教授)

礼拝と音楽、オ四巻五号より

(九月出席統計)

平均	29	16	23	30	34
日	日	日	日	日	日
S	3	3	4	3	4
A	6	6	3	7	5
T	2	3	4	3	2
B	1	1	2	2	5
計	12	13	13	15	16

(九月会計報告)

収入	会費(21人分)	6300
	奉讃代金	1310
		7610
支出	報用費	700
	8.9月号報	1000
	通信費	840
	お菓子	1000
	賞品(封筒)	60
	スリッパ	300
	風呂板	90
	コッポ	85
		4075
前月より繰越		-2945
経計		+590

◇会場増築のための債券発行◇

団員の出席数が増えるにつれ、狭い会場は脅威を感じています。東側から庭に廻って南側一面出入口とするよう、増築を計画中で、建築費材を揃えつつあります。費用を最低にし、又器用もの揃いのわれわれの腕をふるうための、出来るだけ協同作業で仕上げたいと思いますが、それにしても資金が不足こそマニピル中の諸兄姉、御世理のない程度で融資に協力を下さいます。

○債券額面 九三〇円

○満期 一年

○満期になりましたら一〇〇〇円 引き払いします。

○これは合指圖の通常会計とは別個のもので、資金の最低目標は五万円(約五四〇)です。

団員名簿神道

バス 山下広之 川崎市生田三三三八
 明治大学 商学部 四三
 元ト山本量子 新宿区西大久保三九三 増築棟方

才三号訂正

高橋又美子 芸術大学中退とあるのは 学芸大学の誤り
 加藤剛男 明治学院大学三年とあるのは 二年の誤り
 高橋信昭 林鞠家とあるのは 花輪家の誤りにつき訂正します。

団友から団員の皆さんへ一言

1 服部 幸三(東京英大助教授)
指揮の森井さんとドイツのミカアルツムアルトの
一副を敬歩しながら、バウハのカンチネラについて目を
輝かせながら語り合ったのを思い出します。それは
こんな形で実ってきたのは嬉しいかぶりです。バウ
ハのコーラスはなかなかむずかしい曲が多いのですが
技巧よりもっと大切なのは、人間の心をなす宇宙的秩
序に結びつける精神的なハルモニアだと思います。
それをバウハ協奏の古い伝統をもつストラズブルで
学ばれた森井さんの下に、皆々まのコーラスがすく
すくと育ってゆかれることを祈ります。

2 由木 康(東洋野教会教師)
日報を見ると、また団員は少ないようですが、質
量ともに向上して、バウハをうたいこなせる有かなコー
ラスになって下さい。それにはひとりひとりが責任感
と進歩感とを預めることが必要であると思えます。

3 秋前 紀男(東海大学講師)
多忙な私ですが、出来ることならお手伝いいたし
ます。

九月のお誕生日の歌

山下 友之(九一三) ぼたいたけ

若山 傑(九一三) 讃美歌二八六番

ヨーロッパのまち

— えはかきによせて —
森井 恵美子

日曜日の合唱練習所となっている、私の家の広間
の壁には一月ごとに変わったえはかきが貼られます。
今月からこの紙面を借りて、それらのえはかきを
所々につらなる私の滞欧中の思い出を、語らせ
ていたことと思えます。

1 パリ

フランス人自身にとっても、パリはあこがれの都
です。最も都らしい都、最も魅力あるまち、
パリはどんなに数多く教われ、描かれて、猫も杓
子も懐かされて、観光のどろ箱となり果てても、
やはり世界一の都なのです。私が行ったのは
春、夏二回でしたが、秋も冬も、今年も来年
も、毎回訪れるたびにパリはことなつたはげい
もてなしてくるような気がしました。パリに
住みついてなかなか帰る気になれなくなつてし
まう留学生が多いのも、もつともなことでは
けれど、私ならば、あまりに見るもの聞くものの
豊富なこの都に、快して安住できないことは
ありません。そこでは私は、全くの享受者
とらつてしまつてしまふから。

パリにあるよいものわるいもの、ことごとくが
よきには、利とは非常にかけはなれた、フランス人
たちの手をつくられたものはかりであつて、そこ
では私などはかりとりの存在にすぎない、とい
印象が鮮明です。私はやはり、お客席にと
とまらないために、東京に帰ってくる毎に、
あうたのです。

パリは東京に比べれば、大体小じんまりと
した首都です。しかしなんという密度の増
やでしよう。パリのどの一角からでも、あやう
してみるとよい。下町は下町なりに、郊外は郊
外なりに、語りつたえられてはいるあのパリ情緒を
懐懐することかできます。

パリはどこをとつても絵になります。今月か
られる五葉の絵はかきは、最も月並ながら
それそれにはやはり祈の心をかき立てた、あは
れパリの道具立てでした。

- 1、ノートルダム大聖堂 西面よりサンピエールの塔
- 2、ノートルダム大聖堂とその南を流れるセヌワ河
- 3、エトワール広場と凱旋門
- 4、コンコルド広場
- 5、エッフェル塔